

ものづくり寄席



平成23年5月～7月

「ものづくり寄席」とは、製造業に関する第一線の研究成果や、製品開発・生産・流通といった現場の最先端の話題が演目として並ぶ、一風変わった寄席

そんな、ものづくり経営に関する研究やものづくり現場の話を、気軽に聞ける寄席が丸の内にあるのを、ご存知ですか？

新家は、東京大学ものづくり経営研究センターの教員を中心に、日本のものづくりを支える企業人などが、代わる代わる出演

「なんや、大学の先生たちの小難しい話か。かなわんな〜。」

そんな心配はご無用。あくまでも「寄席」。お客さんはみんなフリードリンク片手に、ときどき笑いながら聞いています

ものづくり寄席は、木曜日の夕方に開演。仕事帰りに、お気に入りのカフェにでもちょっと立ち寄る気持ちで、それとも、出張ついでに一席、というのも、よろしいのでは

●●● 演者と演目 ●●●

- | | | |
|-------|---------|-------------------------------|
| 5月12日 | 藤本 隆宏 | 地域インストラクターを養成し、日本のものづくり能力向上を！ |
| 19日 | 栗澤 建 | 自動車のローコスト化と電動化は破壊的イノベーションなのか？ |
| 26日 | 佐藤 秀典 | 販売現場リーダーの葛藤とその克服に向けた取り組み |
| 6月2日 | 佐々木久臣 | 海外でつくり、海外で売るためのものづくり |
| 9日 | 岸 保行 | 転換期を迎えた中国でのものづくり |
| 16日 | 高井紘一郎 | トレーサビリティは品質保証の切り札になるか？ |
| 23日 | <休演日> | |
| 30日 | D.A.ヘラー | 日・欧自動車産業における生産技術者(部門)の役割と責任 |
| 7月7日 | 新宅純二郎 | ブラジルにおける日韓企業のものづくり |

東京大学グローバルCOEプログラム ものづくり経営研究センター アジア・ハブ

- 東京大学グローバルCOEプログラム「ものづくり経営研究センター アジア・ハブ」(MMRC-AH)は21世紀COEプログラム「ものづくり経営研究センター」(MMRC)の第二期目として設立されました
- MMRCは、既存の産業分類や製造業・非製造業の枠を超えた「開かれたものづくり」概念にもとづき、現場発のものづくり経営論、戦略論、産業論等の研究拠点として活動してきました
- MMRC-AHは、MMRCで生まれたものづくりに関する知見をアジアのものづくり経営学に応用することにより、この分野で世界をリードする教育・研究拠点となることを目指しています

主催：東京大学グローバルCOE
ものづくり経営研究センター
(東京大学大学院経済学研究科)

共催：特定非営利活動法人
グローバルビジネスリサーチセンター
(GBRC)

URL：<http://merc.e.u-tokyo.ac.jp>
E-mail：yose@mmrc.e.u-tokyo.ac.jp

後援：三菱地所株式会社

演目表

ものづくり寄席は、当日売りしかございません
お時間が出来たとき、ぶらりと気軽に立ち寄りみてください
フリードリンク付きで、ものづくり経営の小咄が楽しめます
人気演目では、立ち見もご愛敬
木戸 銭 (入場料):1,000円 (税込)

皐月

12日(木) **藤本 隆宏**
東京大学大学院教授
ものづくり経営研究センター長

地域インストラクターを養成し、日本のものづくり能力向上を!
～良い現場を日本に残そう(2)

昨年に引き続き、「良い現場を日本に残そう」の第2弾をお話する。地域インストラクター養成スクールの取り組み、現場と本社の話、原価管理、現場支援IT、開かれたものづくりとして流通、サービス業から農業への展開など、最近の動きについてお話する。

19日(木) **穿 澤 建**
ものづくり経営研究センター
特任助教

自動車のローコスト化と電動化は破壊的イノベーションなのか?

昨今の世界同時不況が各国経済に深刻な影響を及ぼした中、いち早く回復を見せた新興国経済が次第に世界経済の牽引役となり、生産と消費構造の両面において新グローバル競争秩序の形成を促そうとしている。とりわけ好調な新興国経済が世界的サステナビリティを一層顕在化させ、それにより自動車産業にダウンサイジング、ローコスト化、電動化の現実性を促進した。中国・インド調査からその実態を力説する。

26日(木) **佐藤 秀典**
ものづくり経営研究センター
特任助教

販売現場リーダーの葛藤とその克服に向けた取り組み

『ものづくり』の考え方は、製造業だけに限定されたものではない。サービス業においても良い流れを生み出すための取り組みが行われている。しかし、新しい業務のやり方を導入する際には障害もある。今回は、自動車ディーラーの販売現場のリーダーに焦点を当て、どのような困難に直面し、それを乗り越えるためにどのような取り組みを行っているのかについてお話する。

水無月

2日(木) **佐々木 久臣**
ものづくり経営研究センター
特任研究員
元いすゞ自動車(株)
専務取締役

海外でつくり、海外で売るためのものづくり

日本のものづくりは「海外でつくり、海外で売る」時代に入った。日本でのものづくりは続くにしても、新興国で調達可能な部品を用いて「コスト競争力」を磨きながら、先進国で通用する「完璧品質」を達成するものづくりの時代である。先人のノウハウを活用しながらも、ものづくりのイノベーションが求められる。経営力をデジタル化することで「グローバルものづくり」の標準化が見えてくる。

9日(木) **岸 保行**
ものづくり経営研究センター
特任助教

転換期を迎えた中国でのものづくり
～広東地域の「労働集約型」ものづくりの未来

中国では、2008年より「労働契約法」「労働紛争調停仲裁法」が施行され、労働者を保護する動きが活発化。その結果、労働争議が増加、各都市の法定最低賃金は引き上げられてきた。2011年に入り中国政府は「所得倍増計画」の実施に踏み切ったことから、今後も労務費の上昇が予想される。こうした中、日本企業はどのような対応を迫られるのだろうか。08年以降、大規模労働争議が頻発した広東地域を例に、転換期を迎えた中国でのものづくりの今後についてお話する。

16日(木) **高井 絃一朗**
ものづくり経営研究センター
特任研究員
元アサヒビール(株)
専務取締役

トレーサビリティは品質保証の切り札になるか?
～顧客満足獲得に向けて

2001年に国内初のBSEが発生し、国は国産牛肉の品質を保証するために急ぎ「牛トレーサビリティ法」を作った。以来多くの食品をはじめ米などにもトレーサビリティの手法が導入されてきた。しかし食品の産地偽装や各種の偽装は後を絶たず、購買者は生産者が出す品質情報に不信を抱いている。購買者が求める商品の安全安心を確保して、必要な情報を如何に効率よく届けて顧客満足に繋げて行くかは、生産者に取って重要な課題である。

30日(木) **ダニエル A. ヘラー**
横浜国立大学准教授
ものづくり経営研究センター
特任研究員

日・欧自動車産業における生産技術者(部門)の役割と責任

生産技術者は、設計と生産の矛盾の克服を導く指摘者か? 設計と生産の各部門の審判か? 既存設備と新設備を最大限活かすために設計図の問題点を指摘し改善を提案できる者か? 革新的な設備の源泉か? 設計部門の成果を工場に効率的に流送するための調整役? それとも、設計部門と生産部門が使えない人材の受け皿? 生産技術部門が、国により考え方がどれだけ変わり得るかの象徴的な例ではないか。事例を混じえて企業のものづくり拠点の海外展開や現地人材育成の問題解決に少しでも役に立つ話をしたい。

文月

7日(木) **新宅 純二郎**
東京大学准教授
ものづくり経営研究センター
研究ディレクター

ブラジルにおける日韓企業のものづくり

BRICsの中で、中国やインドに比べるとブラジルは多くの日本人にとって、縁の薄い国で取り上げられることも少ない。しかし、昨年自動車では日本に次ぐ世界4位の市場に成長し、リーマンショック後も確実に市場は成長を続けている。ブラジルにおいて、意外にレベルの高い日本企業のものづくりの状況、韓国電子系企業が日本企業を逆転したシナリオなどについて報告したい。

2011年 5月～7月開催要項
開催時間 19:00～20:30 (受付開始 18:30)
会場 三菱ビル コンファレンススクエア
エムプラス 1階・サクセス
千代田区丸の内2-5-2
(JR東京駅丸の内南口から徒歩約3分)

満員の際には 入場をお断りすることがございます
演目・演者は 変更する場合がございます
最新情報は ホームページにてご確認ください

